

古着支援プロジェクト

1993年春、ケニアのソマリア難民キャンプを訪問したとき、古着を送って欲しいと要請を受け、1993年6月最初の古着支援が始まりました。

その後もこれまで古着支援を行ったタンザニア政府・タイ政府の方針が変わり、難民支援の古着にも税金を掛けることになり、またコロナのためにコンテナの送料が高騰したため、2022年からは国内で古着をリサイクルすることにいたしました。しかし、今年は昨年に続いて南スーダンに集まった全量を送ります。(今年は国内でリサイクルしないため、集荷の条件が変わっています)



3：送り先（送料は各自ご負担ください）

〒236-0004 神奈川県横浜市金沢区福浦2-8-6
ナカノ株式会社エコムナ横浜工場「わかちあいプロジェクト係」
Tel. 045-701-6263

- ・募集期間中 持ち込み不可（古着に関する問い合わせは、わかちあいプロジェクト Tel. 03-3634-7809まで）
- ・段ボールの大きさ 特に上限はなし

4：募金のお願い

段ボール1箱あたり 2000円 の募金をお願いいたします。

※募金は衣類と同梱しないようお願いいたします。

※古着だけの送付は受け付けていません。

※箱のサイズに上限はありません。

・使用目的：

1. 古着の受け入れ、梱包の費用、中古コンテナ購入費、横浜港～ケニア、モンバサ港までの海上運賃、モンバサ港～南スーダン、Jubaまでの鉄道運賃、Jubaから避難民キャンプまでのトラック輸送代
2. 難民支援のため、その他わかちあいプロジェクトの活動のため



第35回 2026年古着募集要項

1：募集期間

2026年6月1日～12日

※この期間に必ず到着するようにお送りください。



2：集める古着の種類

集める古着の種類：夏、冬、大人、こどもの古着全般 Tシャツ、Yシャツ、トレーナー、ジャージ、ズボン、スカート、ジーンズ、背広・スーツ、カーディガン、セーター（ウール可）、コート（ダウン可）、学校のジャージ、靴類

わかちあいプロジェクトについて

フェアトレードや難民支援活動を通して、開発途上国の人々を支える国際協力NGOです。私たちは1992年にドイツを訪問した際にフェアトレードのしくみを知り、日本で最初の国際フェアトレード認証コーヒー（カフェ・ママ）の販売を開始しました。世界中から製品を取り寄せ、国内では最も多くの国際フェアトレード認証製品を取り扱っており、様々な地域の生産者の自立につなげています。また同じ頃、アフリカ・ソマリア難民救援をきっかけに継続的に難民支援活動に取り組み、現在までアジアやアフリカ、中東の難民生活を余儀なくされる方たちを支援しています。

- ① 国際フェアトレード認証製品の輸入、商品開発、販売
- ② 難民支援活動（古着支援、緊急支援）
- ③ 途上国の自立支援



わかちあいプロジェクトのフェアトレードオンラインショップ「Fair Select（フェアセレクト）」

お買い物で途上国の生産者の自立を支えるフェアトレードをぜひご利用ください。

募金のご協力をお願いします

募金は以下のようにお願いいたします。

- ① 古着送料募金 1箱あたり2000円
 - ② ミャンマー支援、わかちあいプロジェクト支援
- できる限り、海外支援も継続したいと考えております。皆様からの温かいご支援をお願いいたします。

募金の送付先 郵便振替口座

一般社団法人わかちあいプロジェクト募金
00120-4-386390

※通信欄に上記募金の種類をご記入ください

※振替用紙にご住所の明記がない場合や不鮮明であった場合、電信振替で住所が非表示の場合には、報告書等のお知らせをお送りすることができませんのでご注意ください。

わかちあいプロジェクトNEWS No.41

2026 April（年1回発行）

編集 一般社団法人わかちあいプロジェクト

デザイン Design Convivia

発行元 一般社団法人わかちあいプロジェクト

130-0026 東京都墨田区両国3-26-11 東和ビル301
TEL：03-3634-7809 FAX：03-3634-7808



わかちあいプロジェクト NEWS No.41

2026 April



古着を集めて33年、皆様のご協力ありがとうございます。
昨年古着は無事、南スーダンに届き、乾季の2月から配給が始まっています。

古着の始まりは1992年のソマリア内紛の救援活動がきっかけです。翌年、募金の成果を皆さんに報告するため1993年の春、ケニアのソマリア難民キャンプを訪問いたしました。

そのとき現地スタッフから古着を送って欲しいと要望を受けたのがこの始まりです。

最初の古着は1993年6月にケニアに送りました。それから

エリトリア、タンザニア、南スーダン、インド、インドネシア、タイと送ってきました。古着を送ったことがきっかけで、ケニア北西にあるカクマ難民キャンプとの関係が生まれ、日本から多くの青年を派遣いたしました。いまの活動もすべて過去の繋がりのなかから生まれています。

SDGs とフェアトレード

松木傑 フェアトレードを始めよう。わかちあいプロジェクト 代表

毎日の生活の中で手を休め、コーヒーや紅茶を飲み一片のチョコレートをつまむことは、ホッとさせる幸せな時間ではないでしょうか。そのとき私たちはそのコーヒー、紅茶、カカオ、砂糖がどこの誰によってつくられているまで思いがたりません。それらの多くが発展途上国の農民の人たちによって作られています。

最近よく取り上げられていますSDGs（持続可能な開発目標）の柱は環境問題と南北の経済格差、貧困問題です。そのため目標の第1は、貧困をなくそうです。フェアトレードは市民レベルで取り組める、貧困への取り組みです。

コーヒーがフェアトレードの主要な産品で、多くの途上国にとっては主要な農産品です。

フェアトレードコーヒーの最低買入れ価格：（2025年7月現在、1ドル148円で計算）1トン 57万円 奨励金：6.5万円 20フィートコンテナには約18トンほどのコーヒー豆が積載されていますので、奨励金は117万円になります。どれだけ多額な支援になることでしょうか。

2022年時点で、1910の生産者組織がフェアトレード認証を受けており、これらの組織は1,848,268人の農家と197,118人の労働者で構成されています。認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパンを含む世界約100カ国の生産国・消費国を束ねるフェアトレード・インターナショナルは2022年の1年間に農家・労働者に支払われたフェアトレード・プレミアムが前年比10%増の過去最高額、2億2280万ユーロ、日本円にして



約307億1000万円に達したことを発表しました。そのうち、約9824万円は日本から送られています。フェアトレード・プレミアム（奨励金）とは、販売価格に上乗せされ生産者組織に支払われるもので、組合や地域コミュニティの経済的・社会的・環境的開発のために使われる資金です。プレミアムの用途は生産者自らが民主的にビジネスや地域への投資方法を自らが検討し選択します。

SDGsの取り組みの第一歩は、皆さんが飲んでおられるコーヒー、紅茶を美味しいフェアトレードに！

- 世界で最も信頼がおける認証制度の一つであるフェアトレード認証製品です。
- ★明確な基準：途上国生産者への最低買入れ価格の保証、奨励金の支払い、生産者団体の民主的運営など
- ★第三者機関による認証と監査
- ★製品ごとの監査と認証



フェアトレード認証製品はなぜ美味しく、品質がいいのか。30年以上フェアトレード認証製品を扱っていますが、いままで、まづくて品質が悪いとクレームを受けたことはありません。フェアトレードは決して味や品質を保証する認証ではありませんが、以下の理由により美味しく、品質がいいのだと思います。

1. 大半の製品は有機栽培の認証を取っている。
2. 製品の港渡し価格に対して、約10%プラスして支払うフェアトレードプレミアムは、生産者を励まし、やる気を出す要素になっている。
3. 継続的に認証と監査を受けることが義務づけられ、生産者は常に向上することが求められている。

奨励金の役割

「何よりも生きる自信を持つことになり、将来への希望を描けるのです」

スリランカ イダルガセナ茶園を訪問して

一番痛感し教えられましたのは、自分たちが参加して、状況を良くしていくなかで労働者や従業員が持つことができるようになった精神的な自信にあるように思います。社会開発の活動は、ジョイントボディー（フェアトレード委員会）というお茶園の労働者の代表と管理側のお茶園のマネージャーや会社のスタッフ側で構成され、毎月議論を進めながら実行しています。

発展途上国の人たちの多くは、その日暮らしの状況にあ

イダルガセナ茶園のフェアトレード委員会



り、毎日の暮らしに追われています。その中で共に地域のこと、子供の教育のこと、健康のことなどを考えて、計画を立て自分たちで実行できることは、何よりも生きる自信を持つことになり、将来への希望を描けるのです。

そのプロジェクトの原資は、皆様ご購入して下さるフェアトレード製品のプレミアムです。イダルガセナ茶園ではその額は1000万円を越えているのです。

南スーダン 平和構築 Peace Palletの働き

ケニア北西にあるカクマ難民キャンプ出身のデビッドはオーストラリアに移住して大学教育を受けたのち、郷里の南スーダンで平和構築の活動を行っています。

わかちあいプロジェクトは皆さんの募金で彼の活動を支援しています。2026年2月の現在、各部族の青年約40名を集めて2日間、和解の会議を開いています。

南スーダンのレイクス州キュイベット郡とワーラップ州トンジ回廊の間で長年続いてきた、武装した牛飼いキャンプ青年（cattle camp armed youth）同士の暴力的対立を減らすための対話プロジェクトです。

対象地域は、牛の略奪、報復攻撃、道路での待ち伏せ、歴史的な怨恨などにより、国内でも特に暴力が激しいホットスポットの一つとなっています。本事業の特徴は、単発の和平会議ではなく、段階的なプロセス（準備・



2001年 長野マラソンにエチオピア77難民ランナーを同伴後、カクマ難民キャンプに再度帰る途上、チェンマイのわかちあいプロジェクトのコーヒー店に立ち寄りてくれました。右手の竹籠にスズメが入っています。放してやるのが、功徳を積むという仏教に教え。

聞き取り・信頼醸成→合同対話）を重視している点です。最終的には合同対話を行い、合意を継続的に監視するための草の根の平和委員会を設立し、対話後も地域主導で和平を維持でき

る仕組みを作ることを狙っています。全体目標は回廊での武装青年間の暴力を、包摂的な対話と地域主体の平和メカニズムによって減らすことです。

ミャンマー教育支援

ミャンマー東部のカヤ州（現・カレンニョ州）州都ロイコウは、2021年2月の国軍クーデター以降、国内でも特に激しい戦闘が続いてきた地域の一つです。その結果、ロイコウの住民の多くが避難を余儀なくされ、州内外、あるいはタイ国境方面へと大量に移動しました。学校、病院、行政機能は大きく麻痺し、電力や通信も不安定な状態が続いています。市内には破壊された住宅や公共施設が点在し、経済活動はほぼ停止状態にあります。

ミャンマーのカヤ州は、タイと国境を接した山岳地帯で、村に住む子どもたちは離れた町の学校に通わなければなりません。自宅から学校に通うことができないため、寮や親類宅に住みながら通学す



ミャーさんと子供たち

ることとなり、中には小学校から寮生活を送る子どももいます。しかし、貧しい家庭には学校と寮の費用が大きな負担となり、なかなか学校に通えない子どもも

多くいます。わかちあいプロジェクトでは、できるだけ多くの子どもが学校に通えるよう、教育支援を実施しています。